

令和7年度 大田区立安方中学校 自己評価 報告書

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	出席人数	学校関係者記入欄 コメント
生育予測困難な児童を1人1人育て、社会を創造的に育てる	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。 ②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。 ③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4.90%以上 3.70%以上 2.50%以上 1.50%未満	○生徒、保護者、教職員アンケートによる、未来社会を生きるための、主体的な考え、課題解決力、情報活用能力に関連する項目での、肯定的な回答の割合			A B C D	
国際社会に貢献する人材を育成する	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に根拠し、尊重する心や、協力的な態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を育成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しむながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。 ②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。 ③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4.90%以上 3.70%以上 2.50%以上 1.50%未満	○生徒、保護者、教職員アンケートによる、国際都市にお住いを抱え、英語力、国際理解、我が国や郷土の伝統や文化の理解に関連する項目での、肯定的な回答の割合			A B C D	
一人ひとりの個性と能力を伸ばし、社会に貢献する人材を育成する	児童・生徒が豊かな人生を送るために基礎となる力や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。 ②学習習慣の定着に資する指導や応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべての子どもに確かな学力の育成を図っている。 ③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。 ④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4.90%以上 3.70%以上 2.50%以上 1.50%未満	○生徒、保護者、教職員アンケートによる、豊かな心や確かな学力、健やかな体の育成に関連する項目での、肯定的な回答の割合			A B C D	
個性と能力を伸ばし、社会に貢献する人材を育成する	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力向上を促します。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力向上を促します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別指導などにより、一人ひとりの体系的な充実の観点による授業改善を行っている。 ②教職員がそれぞれ専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたとして教育活動を行っている。 ③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4.90%以上 3.70%以上 2.50%以上 1.50%未満	○生徒、保護者、教職員アンケートによる、教師の授業力、学校の組織的な運営力、魅力的な環境づくりに関連する項目での、肯定的な回答の割合			A B C D	
個性と能力を伸ばし、社会に貢献する人材を育成する	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるとともに、相談支援体制の充実を図ることによって、児童・生徒が自分らしくいきいきと生活するための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。 ②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。 ③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4.90%以上 3.70%以上 2.50%以上 1.50%未満	○生徒、保護者、教職員アンケートによる、個に応じた教育、教育相談機能、生き生きとした学びに関連する項目での、肯定的な回答の割合			A B C D	
安心・安全な学校生活を送ることを目指す	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。 ②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4.90%以上 3.70%以上 2.50%以上 1.50%未満	○生徒、保護者、教職員アンケートによる、ICT環境を含む教育環境の整備、安全・安心な学校生活に関連する項目での、肯定的な回答の割合			A B C D	
地域・学校・家庭・地域が連携・協働し、子どもを育てる	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育てる。	①「地域コミュニティの核としての学校づくりを自覚して地帯と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。 ②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力で進めている。 ③家庭教育に関する情報の発信やPTAなど連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4.90%以上 3.70%以上 2.50%以上 1.50%未満	○生徒、保護者、教職員アンケートによる、地域の特色や学校・家庭・地域が連携・協働した生徒の育成に関連する項目での、肯定的な回答の割合			A B C D	

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。